

教育・研究
Education and research

地域貢献
Local contribution

法人経営
Administration

令和元年度 公立大学法人 公立小松大学の取組みと業務運営の評価

Evaluation Report of Komatsu University's Activities and Administration



令和2年8月

小松市公立大学法人評価委員会
Komatsu City University Evaluation Committee



contents

はじめに		03
I 全体評価	総評	04
II 項目別評価		
(1) 教育・研究編	① 教育	05
	② 研究	07
	③ 国際交流	09
(2) 地域貢献編	① 地域貢献	11
(3) 法人経営編	① 業務運営	13
	② 財務	14
	③ 自己点検・評価/広報	15
	④ 施設・設備	16
	⑤ その他	16
III 資料		
(1) 公立小松大学の情報		17
	基本理念・教育理念/大学の学部・学科構成/組織図	
(2) 評価		19
	評価の基本方針/評価項目/小項目別評価 総括表/評価基準	
(3) 用語解説		21
キャンパスマップ		22

今後の大学活動について 新型コロナウイルス感染症への対応と

2020年1月に国内で初めて新型コロナウイルスの感染者が確認されて以降、全国で感染者が増大し続ける中、公立小松大学は開学3年目を迎えました。新年度ガイダンスや入学宣誓式、定期健康診断などは、感染防止対策を徹底した上で実施されましたが、県内の感染拡大を受け、4月13日～21日、全科目が休講となりました。

新型コロナウイルス感染症は社会全体に多大な影響を与えていますが、大学では、4月22日からオンライン授業が開始されたほか、附属図書館のデータベース書籍の学外利用が可能となったり、課外活動の一環として「ZOOM英会話カフェ」が開催されるなど、コロナ禍でも教育研究活動を停滞させることのないよう、様々な取り組みが進められてきました。また、国や市、大学独自の給付金や貸付金などの制度を活用・新設し、学生の学びの継続のための経済支援が講じられたほか、学生の心身の健康や生活、キャリアなどに関するオンライン相談も行われています。

感染症への対応は長期的なものになると見込まれることから、これまで対面で行ってきた市民向けの講演や研究発表、海外の大学等との連携などにおいてもオンライン形式を取り入れるなど、コロナ禍の経験を糧として、新たな時代を見据えた大学運営が今後はより一層求められています。



入学宣誓式 (4/2開催)



公立小松大学校歌 光より速きわれら

なかにし 礼 作詩
千住 明 作曲

見よ 白山の頂を
若き 飛躍の舞台なり
学びの時を 愉しく修め
いざ羽ばたかん 自由の翼
世界は広し ならばなお
翔びゆけわれら！ 光より速く！
公立小松 小松大学

海 永遠の時を打つ
若き 希望も無限なり
果てなき空に ゆるがぬ意志で
描け七色の 調和の虹を
理想は遠し ならばなお
挑めよわれら！ 光より速く！
公立小松 小松大学

この命こそ 奇跡なり
汝 自身を 知りつくせ
高みに上り 高みを越えて
いざ身に浴びん 叡智の景色
真理は深し ならばなお
極めよわれら！ 光より速く！
公立小松 小松大学

【 コロナウイルス感染症に関連したおもな取り組み 】 ※予定も含む

感染防止対策の徹底、円滑な授業実施

- ① 感染防止マニュアルなどによる、学生への情報提供、啓発活動
- ② オンライン授業の実施 (4/22~)
- ③ 6月から、感染症対策を徹底した上で一部の実験実習を再開
また、看護学科では、各種病院実習を学内実習に切り替え



オンラインを活用した学生支援

- ① 附属図書館データベースの学外利用
- ② キャリアサポートセンター、保健管理センターにおけるオンライン相談の実施
- ③ 国際交流センターにおいてZoom英会話カフェを開催
- ④ 留学や海外インターンシッププログラムの説明会をオンラインで実施



学生への経済支援

- ① 「学びの継続」のための学生支援緊急給付金 (国)
- ② 日本学生支援機構による高等教育修学支援新制度、貸与型奨学金
- ③ 大学独自の短期貸付金制度 (7万円以内)
- ④ 小松市高校生・大学生等学習エール応援金 (市)

オンラインで世界と地域をつなぐ

- ① シリコンバレーオフィス及び在シリコンバレーの客員教授と連携したセミナーの開催 (予定)
- ② 海外の協定締結校とのオンライン連携 (予定)

教員の研究活動や大学の知見を地域へ還元

- ① 学内の感染予防の専門家が各種メディアに出演
- ② 市民公開フォーラム「Society5.0時代の医療」開催 (予定)
- ③ シーズ・ニューズマッチングシンポジウム「コロナウイルスーこれからの世界と地域」開催 (予定)



広報こまつ 7月号

は じ め に

2018年春の開学以来、小松駅前の中央キャンパスに加え、末広キャンパス、粟津キャンパスも完成し、希望あふれる学生を迎えるこの3年目に入る矢先、世界中を震撼させる新型コロナウイルス感染症が拡大しました。公立小松大学においては無事に入学宣誓式を執り行うことが出来ましたが、前期講義は一部を除きほぼオンライン授業となるなど、学生の皆さんの学びや暮らしを心配していたところです。公立小松大学生が、未来に向け夢と希望を抱きつづけ、学生生活を通して大きく成長できるよう大学の今以上の取り組みを期待いたします。

さて、2年後の2022年、いよいよ大学から第1期卒業生が誕生します。公立小松大学憲章に掲げられた理念や目標を実現するため、人材育成はもとより、企業や事業者とのパートナーシップを拡大し、学生が社会に貢献できる仕組みづくりを集中して行うことが肝要です。2年後こそ、大学が、市民や地域から真に評価される時だと再認識することが大切だと考えます。

3年後、2023年春には北陸新幹線小松駅が開業します。全国でも稀な新幹線駅に隣接して立地する大学として、その強みを存分に活かし、学生と大学、そして地域全体が持続的に成長することをご祈念いたします。

小松市公立大学法人評価委員会 委員長

小松市公立大学法人評価委員会 委員

項目	氏名	所属 職名
委員長	むらもと けんいちろう 村本 健一郎	金沢大学 監事
委員	まつざわ てるお 松澤 照男	北陸先端科学技術大学院大学 名誉教授
委員	なかやま けんいち 中山 賢一	小松マテーレ株式会社 代表取締役会長
委員	あきやま のりこ 秋山 典子	医療法人社団 澄鈴会 理事長
委員	かわみなみ えみ 河南 恵美	河南恵美税理士事務所 代表

※小松市公立大学法人評価委員会条例により設置する市長の附置機関。法人の運営に関し、第三者の視点から評価を行う。

公立小松大学 中央キャンパス



評価

A 目標・計画の達成に向けて順調に進んでいる

令和元年度の公立大学法人公立小松大学の業務実績は、全体として中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいると評価できる。

開学2年目の重要な年度として、入学定員に対する志願者数・受験者数も目標を上回り、また、特長である3キャンパス体制も無事完成した。ものづくりの集積地に位置する栗津キャンパス、南加賀の中核医療機関と隣接する末広キャンパス、そして新幹線が開業予定の小松駅前の中央キャンパスの好立地を活かし、教育のさらなる充実が期待できる。教育面では、海外との新たな協定締結を着実に増やすとともに、産学合同のシリコンバレー研修を実施するなど、グローバル時代に必要となる人材の育成に向けた取り組みを進めている。一方、教員・学生ともに、地域や企業をフィールドとした活動も昨年度以上に拡大して展開している。研究面においては、科学研究費補助金採択件数も目標を大幅に上回るなど、積極的な姿勢が大いに評価できる。

さて、令和4年度春には、公立小松大学で学んだ学生をはじめ社会に送り出すこととなる。この1、2年は今後の法人経営にとっても大変重要な年となる。法人がこの評価結果を活用しながら、先が読みにくいコロナ禍の中、企業や医療機関等との協力体制をさらに充実し、学生たちが無事に社会で活躍できるための取り組みを一層進めていくことを期待したい。

項目別評価

項目	評価結果	評価基準
(1) 教育・研究	① 教育 A 順調	S 特筆すべき進行状況
	② 研究 A 順調	A 順調
	③ 国際交流 A 順調	B 概ね順調
(2) 地域貢献	① 地域貢献 A 順調	C 要改善
(3) 法人経営	① 業務運営 B 概ね順調	D 要抜本的改善
	② 財務 A 順調	
	③ 自己点検評価・広報 A 順調	
	④ 施設・設備 A 順調	
	⑤ その他 A 順調	

評価

A

目標・計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 学生の学修意欲の向上と確かな知識・能力の習得に向け、少人数制の指導やグループディスカッション、課題解決型学習を授業に積極的に取り入れ、また、専門分野で活躍する外部講師の招聘も実施した。併せて、教員間での授業内容や評価の共有により、授業や指導方法の向上に取り組んだ。
- 全授業で学生に授業評価アンケートを実施したところ、5段階評価で平均4.15と、高評価を得た。
- 新生活支援として、新入生を対象に全学科で「きずな合宿」を開催し、学生相互、学生・教員間の交流促進を図った。また、教員が学生と定期的に面談し、学修面・生活面の把握とサポートに努めた。
- キャリアサポートセンターでは、企業見学会やキャリアカウンセリングを実施し、学年進行に応じたキャリア支援を実施した。
- 入学者選抜試験に向けては、進学相談会の参加エリアを東海地域にまで広げるなど、募集活動を強化し、2020年度の志願倍率は5.5と、高倍率を維持した。
- 世界遺産検定で団体として最高賞の「文部科学大臣賞」を受賞するなど、学生の主体的な学びが成果として表れている。
- 講師派遣や、英語特別講座開催などに取り組み、地域の教育を支援した。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

【 評価 】

- ◎ 授業評価アンケートにより学生が授業を評価できる制度は、教員へのフィードバック体制として有益であり、平均4.15と高い満足度を示した点は評価できる。今後さらに適正なフィードバックがなされるよう、適宜アンケートの項目や実施方法の見直しを図られたい。
- ◎ 「きずな合宿」は、入学当初の学生同士の結びつきを深める非常に良いきっかけである。
- ◎ 相談教員の取り組みは評価できる。引き続き、日常的な交流により相談しやすい体制をとるなど、より実効性のある工夫をすることが望ましい。
- ◎ 教育・研究の推進、学生の就職支援には、地域の企業等との地道な関係づくりが大切であり、より一層の取り組みを期待する。



外部講師の招聘

生産システム科学科では、客員教授の土井隆雄氏(宇宙飛行士)を招き、特別講義「有人宇宙活動」を開催した。

第38回世界遺産検定 文部科学大臣賞受賞

国際文化交流学科の専門基礎科目「世界遺産を学ぶ」の受講者延べ75人が受検。全国の団体受験している団体の中でも特に優秀であると認められた。



数値指標の達成状況

※ [] は、達成年度前であるが、R1年度実績として数値把握しているもの

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	R1目標値	実績	備考
志願倍率	志願者数 ／募集定員	最終年度	2倍以上	—	[7.2倍]	2019年 7.2(一般8.8、特別2.6) 2020年 5.5(一般6.5、特別2.6)
学生の満足度	5段階評価 (平均値)	毎年度	3.3	3.3	4.15	前期 4.19 後期 4.11
市民公開講座 開講数	開講テーマ数 ／年	完成年度以降	10／年	—	[22]	市民大学 17 資格取得支援講座 3 その他授業 2
	教員参加数 ／年	完成年度以降	20人／年	—	[延べ33人]	
市民による 施設利用度	市民図書館 利用者数／年	毎年度	500人	500人	2,488人	
	自習室利用 登録者数／年	毎年度	80人	80人	2,412人	登録制から毎回の受付に変更
	大学施設 利用件数／年	毎年度	25件	25件	338件	中央 50件 粟津 287件 未広 1件



きずな合宿 (4/26-4/27開催)

野外炊飯やレクリエーションなど、各学科工夫を凝らし、交流を深めた。

オープンキャンパス2019 (7/13開催)

会場配置の変更や申込フォームの設置、情報発信の拡大などを行った結果、前年度(487人)を大きく上回る809人の参加があった。



評価

A

目標・計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 末広キャンパスの竣工、粟津キャンパスの各種改修・新設工事の完了により、学部学科ごとに研究機能が集約し、研究環境が向上した。
- 新たな制度や予算を設け、特色ある研究や地域の問題解決に向けた研究の推進、学科単位での研究力向上を図り、研究支援を強化した。
- 外部講師を招聘して講習会を開催し、科学研究費補助金等の学部資金獲得に向けた教員のスキルアップを図った。科研費採択件数、その他助成金採択件数はいずれも中期計画目標値を上回っている。
- 学科別に「シーズ・ニーズマッチングシンポジウム」を開催し、研究力を発信するとともに、地域課題解決に向けた連携協力体制の構築を推進した。(11/8、12/14、1/25、2/8)
- 共同研究費は昨年度比約3.5倍に増大した(1,170万円)。
- 半年に1度教員の研究業績の取りまとめを行い、学会報告、学術論文、著書いずれも中期計画目標値を上回っている。

研究環境の向上

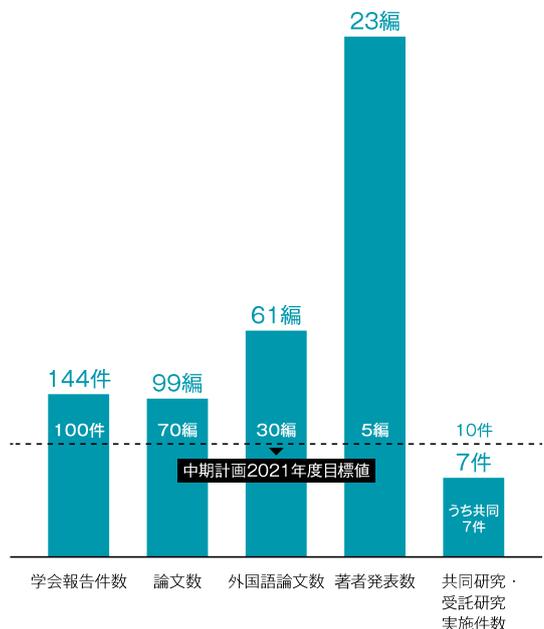
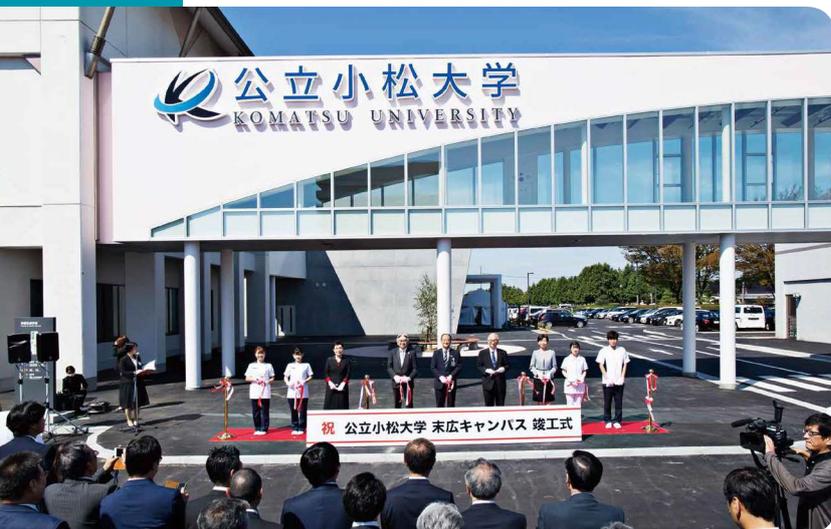
9月、末広キャンパスが竣工。南加賀地域の広域医療の拠点である小松市民病院に隣接し、今後、エリアの強みを生かした教育研究の推進が期待される。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ 研究実績は2年目としては優秀で、特に科学研究費補助金等の獲得状況は評価できる。
- ◎ 外国人研究者との共同研究等にも取り組み、海外との交流を研究分野でも進めていくことが望ましい。
- ◎ 複合大学の特色を活かすため、学部学科間での共同研究など、横断的な研究活動の推進を期待する。
- ◎ シーズ・ニーズマッチングシンポジウムについては、その成果が重要であり、マッチングしていくことに力点を置く必要がある。



数値指標の達成状況

※ [] は、達成年度前であるが、R1年度実績として数値把握しているもの

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	R1 目標値	実績	備考
学会報告件数	報告件数/年	完成年度以降	100件	—	[144件]	
論文・著書数	論文数/年	完成年度以降	70編	—	[99編]	
	英語・その他の外国語論文数/年	完成年度以降	30編	—	[61編]	
	著書発表数/年	完成年度以降	5編	—	[23編]	
共同研究・受託研究数	実施件数/年	完成年度以降	10件	—	[7件]	共同研究 7件
科学研究費補助金等獲得状況	科学研究費補助金採択件数/年	完成年度以降	15件	—	[28件]	新規 9件 継続 19件
	その他外部研究資金採択件数/年	完成年度以降	5件	—	[14件]	



産学官連携イベントへの出展

MEX金沢 (5/17-19) や北陸技術交流テクノフェア (10/24-25)、Matching HUB Kanazawa2019 (11/12) に出展し、研究シーズの発信や、地域連携推進センターの活動PRなどを行った。



シーズ・ニーズマッチングシンポジウム

教員の研究発表や大学の取組などを紹介。生産システム科学科では、2年生全員が参加し、学生が地域の産業やものづくりの文化を学ぶ機会にもなった。



市民公開フォーラムの開催 (10/26)

「宇宙とツーリズム」と題し、学長特別補佐の山崎直子氏、客員教授の寺門和夫氏を迎えて開催した。

評価

A

目標・計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 新たに大学間協定5件、部局間協定3件を締結した。

※累計では13件(大学間:8件、部局間:4件、その他:1件)

<新たな協定の締結>

◎大学間協定

- * 常州大学(中国)
- * トungkアブドゥルラーマン大学(マレーシア)
- * オースティン・ピー州立大学(米国)
- * ランシット大学(タイ)
- * 泰日工業大学(タイ)

◎部局間交流協定

- * モンクット王立工科大学トンブリー校 産業教育技術学部(タイ)
- * 国立中山大学工学部(台湾)
- * 東南大学外国語学院、海外教育学院(中国)

- 中国や台湾などの協定校との短期及び長期の交換留学等を実施した。

※春休み期間中に予定していた3件の短期留学は、世界的な新型コロナウイルス感染拡大を受け、中止

- 海外研修として、「カンボジア国立アンコール遺跡整備公団インターンシップ」のほか、新たにシリコンバレーオフィスを活用した「産学合同シリコンバレー研修」、石川県の補助を受け「石川ルクセンブルク青年交流事業」を実施した。短期、長期の交換留学と併せて、学生の国際感覚の涵養を図った。

- 学生の海外派遣にあたって、危機管理サポート加入のほか、保健管理センターによる事前研修など、危機管理体制を強化した。また、海外からの学生受入には、粟津キャンパス内の寮室の確保やチューター制度の創設など、環境整備を推進した。

- 海外からの視察団(スウェーデンやロシア、インドなど)の受入や、国際情勢について学ぶ「こまつ市民大学」の開講、「英会話カフェ」の開催など、小松市や小松市国際交流協会等と連携し、地域の国際活動を支援した。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎「産学合同シリコンバレー研修」において、市内社会人との合同研修は学生にとって有益であり、評価できる。

- ◎大学独自で海外からの訪問受け入れなどを積極的に行うことが望ましい。

- ◎交流協定の締結状況は、2年目としては順調に推移していると評価できる。今後は小松市の姉妹都市・友好交流都市等に立地する大学との交流を目指した活動を期待する。



海外の大学との協定締結

11月6日、横川善正副学長と国際文化交流学部の木場紗綾准教授が米国テキサス州のオースティン・ピー州立大学を訪問し、大学間交流協定を調印した。



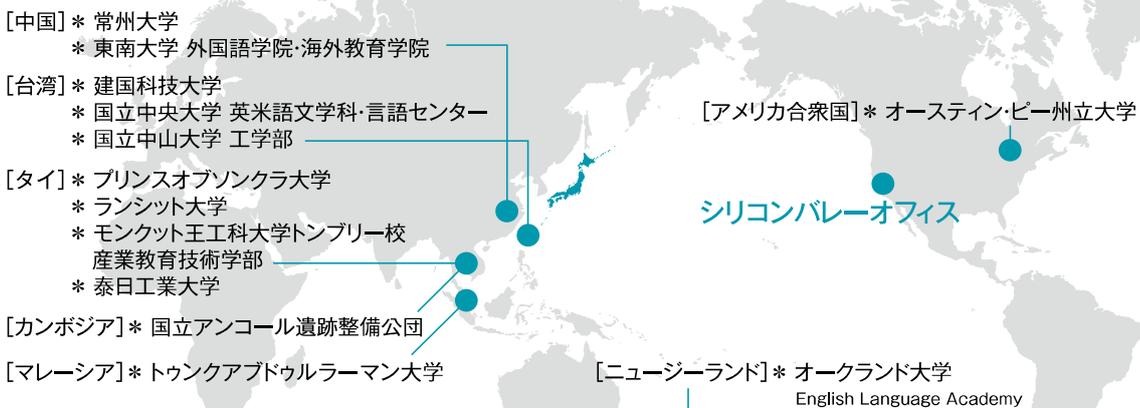
産学合同シリコンバレー研修 (9/1-7)

学生8人、市内の社会人4人が参加。現地企業の視察や、グループに分かれての課題研究などを行った。

※ [] は、達成年度前であるが、R1年度実績として数値把握しているもの

数値指標の達成状況

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	R1 目標値	実績	備考
留学生受入・派遣数	受入人数/年	毎年度 (3年目以降)	10人以上	—	[10人]	短期 5人 長期 5人
	派遣人数/年	毎年度 (3年目以降)	40人以上	—	[36人]	短期 30人 長期 6人
海外大学等との交流協定締結数	協定数(累計)	最終年度	10件	—	[13件]	大学間 8件 部局間 4件 その他 1件
国際シンポジウム・セミナー等発表・開催数	発表者数/年	完成年度以降	15人	—	[延べ29人]	
	開催件数(累計)	最終年度	15件	—	[8件]	



インドの大学生の受入・交流 (11/22)

外務省の対日理解促進交流プログラム「JENESYS2019」で小松を訪れたインドの大学生とともに、平和教育について考えるワークショップを開催。



評価

A

目標・計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 自治体や地域の団体等と連携し、学生を交えながら、各種プロジェクト活動を推進した。
 - *大学コンソーシアムいしかわ
「地域課題研究ゼミナール支援事業」2件採択
 - *KUTANismへの協力
(実行委員参画、「九谷さんぽ」で
学生がボランティアガイドとして活動)
 - *「世界糖尿病デー」ライトアップイベント実施
(小松市医師会糖尿病連携推進協議会共催)
- モノづくり企業の従業員を対象に実践的な教育プログラムとして、「ものづくり人材スキルアッププログラム」を実施した。また、市内企業からのニーズを受け、品質管理検定受験講座を開講した。
- こまつ市民大学では、本学教員が講師を務め、ものづくりや健康、語学、国際情勢など、教員の研究分野に沿った講座を多数開講し、市民の学びをサポートした。
- 講義室や図書館、食堂、運動場などの施設の市民利用を進めた。特に中央図書館の自習室は、近隣の高校生の利用が拡大した(利用者数:2,412人)。
- 市内事業者等から多くの協力を得て、大学祭「第2回青松祭」を開催した。「ラグビーワールドカップパブリックビューイング」などのイベントと連携し、事前PRを展開した。
- サークルは35団体に増加し、県内のベーカリー店とコラボ商品を開発・販売するなど、地域に根差した積極的な活動を行うサークルもあった。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎こまつ市民大学等で、様々な研究領域に渡る知見を地域に提供した点は評価できる。今後は特に、新型コロナウイルス感染症に関して、地域の医療機関等へ大学の「知」が還元されることを期待する。
- ◎サークル活動において、県内ベーカリー店とのコラボなど地域に根差した積極的な活動が展開された点は評価できる。
- ◎糖尿病予防の取り組み・発信など、研究活動を活かした地域貢献がなされている点は評価できる。



地域と連携した各種プロジェクト

学生が月津地区の乗合ワゴンの活性化を検討し、ショッピングモールやその周辺のマップを作成。月津地区全世帯に配布された。(大学コンソーシアムいしかわ「地域課題研究ゼミナール支援事業」採択事業)



大学施設の市民利用等促進

未広キャンパスの食堂「健康Kitchenすえひろ」は日替わりランチ（390円）などを提供。カロリーや塩分表示により、食を通して健康づくりを進めている。

数値指標の達成状況

※ [] は、達成年度前であるが、R1年度実績として数値把握しているもの

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	R1目標値	実績	備考
市民公開講座 開講数（再掲）	開講テーマ数 ／年	完成年度以降	10／年	—	[22]	市民大学 17 資格取得支援講座 3 その他授業 2
	教員参画数 ／年	完成年度以降	20人／年	—	[延べ33人]	
市民による 施設利用度（再掲）	市民図書館 利用者数／年	毎年度	500人	500人	2,488人	
	自習室利用 登録者数／年	毎年度	80人	80人	2,412人	登録制から毎回の受付に変更
	大学施設 利用件数／年	毎年度	25件	25件	338件	中央 50件 粟津 287件 未広 1件
連携施設・ 店舗等の数	累計数	最終年度	50件	—	[336件]	協力企業等 319団体 ランチ助成券 17店舗 学食ネット 2店舗 (ランチ助成券との重複2店舗)
学生の地域行事等 ボランティア件数・ 人数	件数／年	完成年度以降	20件	—	[15件]	
	参加人数／年	完成年度以降	100人	—	[88人]	



大学祭「第2回青松祭」(10/19-20)

ステージや模擬店は、JR小松駅高架下で開催。雨にも関わらず、多数の来場があった。

お旅まつり 曳山曳揃え

お旅まつりでは、曳山の曳手として学生が参加し、まつりを通して地域住民との交流が行われた。



B 評価 | 目標・計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 半年に一度、評価室ヒアリングを実施し、各セクションの業務の進捗状況等を確認し、組織全体としての適切な進捗管理を推進した。
- 末広キャンパスが完成し、3キャンパス体制が本格的にスタート。業務量や内容を精査し、所要の人員配置により、概ね順調に業務を執り行った。
- 全職員を対象とした各種研修会（教育、研究、財務、安全管理など）や初任者研修開催によりFD・SD活動を推進し、教職員の資質・能力の向上を図った。
- 中長期的な視点で職員の年齢構成や経験などのバランスを考慮し、事務職員採用試験（5月～7月に実施）、教員の公募（3月～）を実施した。
- オンラインを活用し、業務の効率化・合理化を推進した。

◎業務改善（一部抜粋）

- *授業評価アンケートを、用紙配布からポータルサイト（学務情報システム）に切り替え
- *寄附金の受付に、クレジットカード決済、コンビニ支払いを導入
- *研究シーズ集作成にあたり、「デジタル校正システム」を導入

職員研修の開催（7/24）

「学生の理解度を深める授業方法について」をテーマに金沢大学の堀井祐介教授を招いて開催した研修会には、74人が参加した。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、概ね順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎効率化の面から、学生の情報を入学から卒業、就職まで一貫して管理できるようなシステムと体制を今から構築することが望ましい。
- ◎職員研修については、研修効果の評価や、その評価内容を業務や職場にフィードバックするため、アンケート等を実施することが望ましい。また実施の際には、出席率なども考慮しながら計画的な開催を図られたい。
- ◎3キャンパス間で連携を図り、職員一人ひとり（特に若い職員）の意見を聴く機会、組織づくりを期待する。



※ [] は、達成年度前であるが、R1年度実績として数値把握しているもの

数値指標の達成状況

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	R1目標値	実績	備考
業務改善実施件数	件数(累計)	最終年度	40件	—	[25件]	
FD・SDに関する取組件数	FD・SD活動取組件数/年	毎年度	1件以上	1件以上	4件	第1回「学生の理解度を深める授業方法について」 第2回「科学研究費助成事業研究計画調書の作成にあたって」 第3回「救命講習会」 第4回「学生の実践力アップを目指す3つの教育ストラテジー」

評価

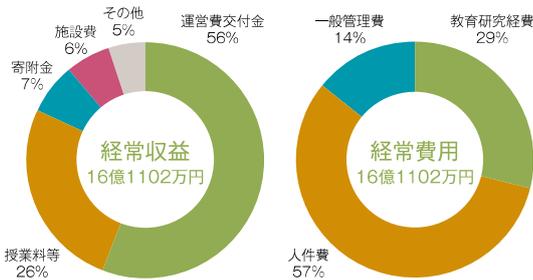
A 目標・計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 高校教諭向け説明会やオープンキャンパスの開催、東海地域を含めた進学相談会参加や高校訪問など、積極的に学生募集活動を展開し、受験生の獲得及び定員の充足を図り、安定した学生納付金の確保につなげた。
- 保護者への案内パンフレット配布や、大学ホームページからの直接申し込みやカード決済を導入するなど、PRと利便性を強化し、基金への寄附の受入を促進した。
- 財務研修の開催や、財務課職員の外部研修への派遣などにより、コスト意識の向上に取り組んだ。



基金への寄附金募集
基金への寄附金は、クレジットカード及びインターネットバンキングでの支払いも可能となった。



評価委員会による評価

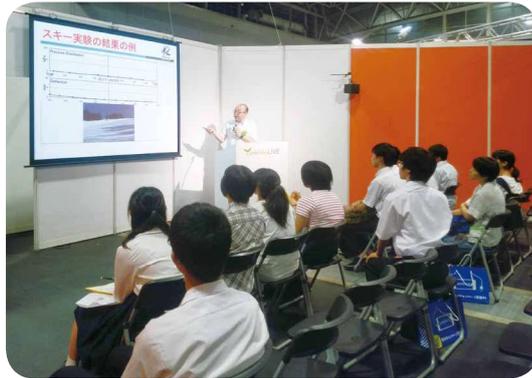
年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ 積極的な入試広報で高い志願倍率を維持していることは評価できる。
- ◎ 基金への寄附について、案内パンフレットを様々な機会を通じて配布するなど、より積極的な広報が望ましい。また、寄附者に対しては各種大学の取り組みについてお知らせするなど、寄附後の関係づくりにも工夫を図りたい。

積極的な学生募集活動

愛知県のポートメッセなごでで開催された大規模な進学説明会「夢ナビライブ2019」に出展。大学説明や模擬講義などを実施した。



※ [] は、達成年度前であるが、R1年度実績として数値把握しているもの

数値指標の達成状況

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	R1目標値	実績	備考
自己収入額	自己収入額/年	毎年度 (完成年度以降)	7億円以上	—	[5.0億円]	
科学研究費補助金等獲得状況 (再掲)	科学研究費補助金採択件数/年	完成年度以降	15件	—	[28件]	
	その他外部研究資金採択件数/年	完成年度以降	5件	—	[14件]	

評価 | A 目標・計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 開学1年目の業務実績について法人評価委員会による評価を受け、その後、指摘事項やアドバイスは学内の審議会や委員会を通じて全職員へ周知し、業務改善や新たな取組みの実施に努めた。
- 自己点検・評価委員会及び評価室により、各セクションの業務の把握、進捗管理を定期的に行い、円滑な業務執行につなげた。
- 広報紙「Tachyon」の発行、大学ホームページの更新のほか、テレビやラジオ、新聞、市の広報紙などさまざまな媒体を活用し、大学の取組や学生の課外活動、教員の研究などについて積極的にPRした。



テレビ・ラジオの活用

9月に実施した産学合同シリコンバレー研修には、県内テレビ局が同行取材を行い、後日、2日間にわたって研修の様子が放送された。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎業務が複数キャンパスにまたがり、また、学年進行に伴い業務も増大していくことから、定期的な業務の把握は大変重要である。より一層進捗管理体制を強化し、適切な業務運営に反映されたい。
- ◎著名な外部講師の公開授業等について、PR強化による市民参加の促進や、オンラインの活用など新たな取組が必要である。

広報紙Tachyon

7月、2月に発行し、保護者や北陸三県の高校へ送付しているほか、市内公共施設にも設置し、学生の様子や大学の取組などを発信している。



キャンパス整備

末広キャンパスでは、本格供用にあたり、キャンパス内のセキュリティや利用時間などをまとめた「利用ガイド」を学生に配布した。



末広キャンパスC棟



粟津キャンパス

評価

A 目標・計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- キャンパス整備を実施し、粟津キャンパスではエレベーターの新設や研究室・実習室の改修、末広キャンパスではC棟の増築工事、A棟・B棟の改修工事をいずれも計画通り完了した。
- 中央キャンパスでは、こまつアズスクエア1階に自動ドアを新設し、利用者の安全性の向上を図ったほか、3キャンパスで花壇の設置や壁面緑化などを取り入れ、キャンパス環境の向上に努めた。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ 今後もキャンパス利用者の利便性・安全性の向上に向けた計画的な整備及び設備の充実を図りたい。

評価

A 目標・計画の達成に向けて順調に進んでいる

主な活動内容と成果

- 学生を含めた防災訓練実施や安否確認システム「Safetylink24」の本格運用など、危機管理体制の強化に努めた。
- 全学情報システム運用委員会において、情報システム基本運用方針や情報格付け基準などを策定し、情報セキュリティ体制の構築を進めた。
- 定期健康診断やストレスチェック、インフルエンザ集団予防接種の実施など、学生と教職員の心身の健康維持・増進に取り組んだ（ストレスチェックは職員のみ）。また、公認心理師（臨床心理士）による学生相談の実施、ハラスメント相談員の選任と相談員を対象とした研修開催など、学内の相談体制の整備もあわせて推進した。
- 平成30年度の決算・業務について監事監査を実施し、法人業務は適正に実施していると認められた。

評価委員会による評価

年度計画の各項目において、計画を達成または上回る取組が行われており、順調に進んでいると評価される。

【評価】

- ◎ 「Safetylink24」の配信訓練を実施していることは評価できる。今後はさらに定期的な訓練を通して、訓練の必要性や使用方法を周知していく必要がある。
- ◎ 学生の防災意識、ボランティア精神の醸成に向けた取り組みを期待する。
- ◎ インフルエンザの集団予防接種や学生相談の実施など、学生の心身の健康維持・増進活動は評価できる。今後はコロナ禍による学生の孤立化も危惧されるため、メンタルヘルスケアの取り組みがより一層重要である。

危機管理体制の強化

安否確認システム「Safetylink24」は、全学生・教職員にアプリのダウンロードを推奨し、配信訓練を2回実施した。



学生・教職員の健康管理

保健管理センターでは、毎月、健康づくりの情報などをまとめた「ほけかんだより」を全学生・教職員へメールで配信している。



4

施設・整備

5

その他

基本理念・教育理念

公立小松大学は、これまで地域で培われてきた教育資源である小松短期大学及びこまつ看護学校の施設設備や高い教育実績を礎に、これらを再編・発展させ、南加賀唯一の4年制高等教育機関として平成30年4月に開学した。

地域における教育、研究の中核的拠点として、以下の **基本理念** を掲げている。

- 地域と世界で活躍する人間性豊かなグローバル人材を育成する大学
- 持続的発展に向けて生産システムや人間の健康医療の科学技術を革新し、異文化交流を推進する大学
- 地域に対して貢献し、地域によって支えられ、地方を共創する大学

また、基本理念に基づき、以下の **教育理念** を掲げている。

- 確かな基礎知識と高度な専門能力の修得に向けた主体的な学びと組織的な教育
- 人間・社会・自然と科学技術の発展を総合的に捉える先駆的な科学教育
- 人間性豊かな市民、応用力のある専門職業人、グローバル人材を育成する地域と協働した教育

大学の学部・学科構成

[単位:人]

学部	学科	入学定員	収容定員	現員 令和元年5月1日現在		
				男	女	計
生産システム学部	生産システム科学科	80	320	148	14	162
保健医療学部	看護学科	50	200	6	97	103
	臨床工学科	30	120	32	34	66
国際文化交流学部	国際文化交流学科	80	320	35	130	165
合計		240	960	221	275	496

評価の基本方針

年度評価は、公立大学法人公立小松大学（以下「法人」という）の中期目標の達成に向けた中期計画の進捗状況を確認する観点から行い、評価に当たっては、総合的かつ効率的に行う。なお、評価の際は、法人の教育研究の特性や業務運営の自主性・自律性に配慮するとともに、評価を通じて、法人の中期目標の達成に向けた取組状況を市民に分かりやすく示すよう努めるものとする。

評価項目

項目別評価	小項目別評価	年度計画の最小項目として記載されている各事項の達成状況。評価基準に沿って評価を行う
	指標単位評価	年度計画の各数値目標の達成状況。評価基準に沿って評価を行う
	大項目別評価	小項目別評価及び指標単位評価を踏まえた、中期計画における大項目ごとの進捗状況 大項目ごとに評価基準に沿って、中期計画の進捗状況を総合的に勘案して評価を行う
全体評価		項目別評価を踏まえた中期計画全体の進捗状況。大項目別評価の結果を踏まえ、中期目標の達成に向けた中期計画全体の進捗状況を総合的に勘案して評価を行う

小項目別評価 統括表

大項目	事業 項目数	5	4	3	2	1	設定 平均値	
		年度計画を 大幅に 上回る	年度計画を 上回る	年度計画を 概ね実施	年度計画を 十分に 実施せず	年度計画を 大幅に 下回る		
Ⅱ	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 ①教育に関する目標を達成するための措置	40	2 (5.0%)	26 (65.0%)	12 (30.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.8
Ⅱ	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 ②研究に関する目標を達成するための措置	8	0 (0.0%)	6 (75.0%)	2 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.8
Ⅱ	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 ③国際交流に関する目標を達成するための措置	3	0 (0.0%)	3 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.0
Ⅲ	地域貢献に関する 目標を達成するための措置	10	0 (0.0%)	8 (80.0%)	2 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.8
Ⅳ	業務運営の改善及び効率化に関する 目標を達成するための措置	12	0 (0.0%)	1 (8.3%)	11 (91.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.1
Ⅴ	財務内容の改善に関する 目標を達成するための措置	9	1 (11.1%)	3 (33.3%)	5 (55.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.6
Ⅵ	自己点検・評価及び情報の提供に関する 目標を達成するための措置	4	0 (0.0%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.5
Ⅶ	その他業務運営に関する 目標を達成するための措置	14	1 (7.1%)	10 (71.4%)	3 (21.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.9
XIII	その他設立団体の規則で定める 業務運営に関する事項	1	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.0
	合計	101	4 (4.0%)	60 (59.4%)	37 (36.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.7

評価基準

評価区分		設定	評価基準	評価の目安
項目別評価	小項目別評価	5 4 3 2 1	年度計画を大幅に上回る 年度計画を上回る 年度計画を概ね実施 年度計画を十分に実施せず 年度計画を大幅に下回る	特に優れる若しくは顕著な成果がある 上回る若しくは十分な実施状況 実施している 下回る若しくは実施が不十分 特に劣る若しくは実施していない
	指標単位評価	s a b c d	年度計画を大幅に上回る 年度計画を上回る 年度計画を概ね実施 年度計画を十分に実施せず 年度計画を大幅に下回る	達成率100%以上かつ顕著な成果がある 達成率100%以上 達成率80%以上 100%未満 達成率60%以上 80%未満 達成率60%未満
大項目別評価	S	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある	小項目別評価の平均値が4.3以上、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を上回り、さらに業務の進捗状況や特記事項の内容に特筆すべき進捗や取組があると評価委員会が認める場合	
	A	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる	小項目別評価の平均値が3.5以上4.2以下、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を上回り、さらに評価委員会が「A」相当と認める場合 小項目別評価の平均値が3.5以上4.2以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「A」相当と認める場合	
	B	中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる	小項目別評価の平均値が2.7以上3.4以下、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を概ね上回り、さらに評価委員会が「B」相当と認める場合 小項目別評価の平均値が2.7以上3.4以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「B」相当と認める場合	
	C	中期目標・中期計画の達成のためには改善を要する	小項目別評価の平均値が1.9以上2.6以下、または、指標単位評価の項目において数値指標を下回り、さらに評価委員会が「C」相当と認める場合 小項目別評価の平均値が1.9以上2.6以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「C」相当と認める場合	
	D	中期目標・中期計画の達成のためには抜本的な改善が必要である	小項目別評価の平均値が1.8以下、または、指標単位評価の各項目において数値指標を大幅に下回り、中期計画の達成のためには重大な改善事項があると評価委員会が認める場合	
全体評価	S A B C D	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる 中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる 中期目標・中期計画の達成のためには改善を要する 中期目標・中期計画の達成のためには抜本的な改善が必要である	中期計画全体の進捗状況について、項目別評価から総合的に勘案し、評価	

(3)

用語解説

地方独立行政法人	住民の生活、地域社会及び地域経済の安定等の公共上の見地からその地域において確実に実施される必要のある事務・事業のうち、地方公共団体自身が直接実施する必要はないものの、民間の主体に委ねては確実な実施が確保できないおそれがあるものを効率的・効果的に行わせるため、地方公共団体が設立する法人。
公立大学法人	地方独立行政法人のうち、大学の設置及び管理を行うもの。公立小松大学の設置・管理は、「公立大学法人公立小松大学」が行っている。
評価委員会	地方独立行政法人法第11条の規定により小松市長の附属機関として設置され、中期目標の策定や中期計画の認可に際しての意見の提示、法人の業務成績についての評価を行うほか、評価結果を踏まえ必要に応じて業務運営の改善・勧告を行うなど、法人の運営に関し、第三者の視点から評価する。評価委員会の組織及び委員等必要な事項は、小松市公立大学法人評価委員会条例で定めている。
中期目標	法人が、6年間に於いて達成すべき目標で、市長が定め、公立大学法人に指示するもの。
中期計画	中期目標に基づき、当該中期目標を達成するために公立大学法人が作成するもの。
年度計画	中期計画を着実に実行していくために法人が年度ごとに作成するもの。
グローバル	「グローバル (Global) : 世界」と「ローカル (Local) : 地域」を掛け合わせた造語。グローバル人材は、国際社会で通用する能力やグローバルな視点・経験を有し、地域の活性化や持続的発展に貢献できる人材を指す。
キャリアデザイン	自分の職業人生を自らの手で主体的に構想・設計＝デザインすること。自分の経験やスキル、ありたい将来像についてを考慮しながら、自らの持つ能力を活かすための仕事、職務の形成を進める。
共同研究	外部機関から研究経費等を受け入れ、大学の教員等が外部機関の研究者と共通の課題について共同して行う研究や、大学・外部機関において共通の課題について分担して行う研究。
受託研究	大学が外部からの委託を受けて職務として行う研究で、これに要する経費を委託者が負担するもの。
科学研究費補助金	人文学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うもの。文部科学省及び独立行政法人日本学術振興会の事業。
ファカルティ・ディベロップメント (FD)	教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催等を挙げることができる。
スタッフ・ディベロップメント (SD)	職員全員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組を指す。「職員」には、教授等の教員や学長等の大学執行部、技術職員等も含まれる。
FD・SD活動	ファカルティ・ディベロップメント (FD) やスタッフ・ディベロップメント (SD) のための大学としての活動。
自己収入額	経常収益のうち、「授業料」「入学金」「検定料」等の合計。